

福岡県築上町小原岩陰遺跡出土の縄文前期人骨

松下孝幸*・松下真実**

【キーワード】：福岡県、縄文前期人骨、土坑墓、女性骨、大腿骨

はじめに

福岡県築上郡築上町（旧・椎田町）大字小原字不動に所在する小原岩陰遺跡^{おぼら}の発掘調査が、県営圃場整備事業に伴い、1991（平成3）年11月27日から翌年の1月17日まで実施された。この発掘調査で、第3トレンチの第36層から人骨が出土した。その一部については略報として報告したが（松下、1992）、それとは別の人骨が築上町教育委員会（船迫釜跡公園）に保管されていることがわかったので、人骨の研究調査をさせていただいた。

縄文時代早期人骨の出土例は、長崎県の岩下洞穴（内藤、1967a、1967b、1968）、大分県の二日市洞穴（松下、1980）、川原田洞穴、^{へぎ}粉洞穴（内藤、1977、1979、1980）、佐賀県の東名遺跡^{ひがしみょう}（松下・他、2009、2016a、松下、2016b、2017）から出土した人骨の他に、愛媛県の上黒岩岩陰遺跡（小片、1963）、新潟県の室谷洞穴^{むろや}（小片、1962）、栃木県の大谷寺洞穴、長野県の^{とちほら}栃原岩陰遺跡（鈴木、1968）、広島県の観音堂洞穴遺跡（小片、1976）、神奈川県の平坂貝塚（鈴木、1950）と夏島貝塚からの出土例が知られている。縄文前期人骨としては、佐賀県の菜畑遺跡^{なばたけ}（松下・他、1982）、熊本県の轟貝塚（鈴木、1918）と曾畑貝塚（松下・他、1988）、大分県の粉洞穴などが知られているが、全国的にみても縄文早・前期の出土例はきわめて少ない。

菜畑遺跡からは縄文時代前期に属する人骨が2体（1号人骨・女性、5号人骨・男性）と縄文時代前期後半～縄文時代中期前半に属する人骨が3体（4a号人骨・男性、4b号人骨・女性、4c号人骨・女性）出土している。女性2体（4b、4c）の大腿骨の観察ができたが、2体とも大腿骨体の径は細く、後面の観察ができた4b人骨では柱状性は認められなかった。男性大腿骨（5号人骨）も骨体の径は細いが、強い柱状性が認められた（骨体中央断面示数127.27・右）。

小片保は、早・前期人と中・後・晩期人では形質に差が認められ、前者は「きゃしゃ」で後者は「頑丈」であることを指摘している（小片、1981）。前者は主に山間部の遺跡から、後者は海浜部から出土していることから、体格や形質の差異は所属時期の相違だけではなく、生活環境の差異、すなわち食糧資源の種類と量の差によってもたらされた可能性も考えられている。しかし、これまで縄文早期人骨が海浜部から出土することがなかったために、海浜部の縄文早期人骨も山間部と同じ特徴を示すのか、それとも海浜部の縄文中・後・晩期人と同じ傾向がみられるのかを検証することができなかったが、海浜部に立地する東名遺跡から縄文早期人骨が出土したので、その検討をおこなうことができた。東名縄文早期人は、縄文中・後・晩期人よりもかなりきゃしゃであったが、その程度は山間部の縄文早期人程ではなかった。すなわち、縄文早期人は海浜部でも山間部でも立地に関係なく、縄文中・後・晩期人よりもきゃしゃであることが示唆された。それは氷河期が終わって温暖になったとは言え、縄文中・後・晩期ほど食料資源事情はよくなかったことによるものと思われる。ただ、山間部の縄文早・



図1. 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig.1 Location of the Obara rock shelter site, Chikujo-machi, Fukuoka Prefecture)

前期人に比べると海浜部の東名早期人の四肢骨の方が大きく、これは山間部よりも海浜部の方が食料資源の量と種類で優っていたことによるものであろう。

築城町教育委員会に保管されていた人骨は1991年に小原岩陰遺跡第3トレンチの第36層から出土した人骨で、大腿骨体と頭蓋片のみであったが、九州では例数が少ない縄文前期人骨であることから、人骨の観察や計測をおこなったので、その結果を報告しておきたい。

資 料

保管されていた人骨は、大腿骨体と頭蓋片のみであった。大腿骨体は壊れていたもので、クリーニングをおこない、接合した。報告書によれば、この人骨は、第3トレンチの第36層から出土した人骨で、「第36層の縄文人骨の出土は、何回かの流水を受けてはいるものの、人為的な土壌であることは間違いなく」（小原谷Ⅰ 椎田町文化財調査報告書第4集、1992、62頁）とあり、遺構は土坑墓と考えられている。残存量は少ないが、人骨に重複がないので、1体分の人骨と思われる。本人骨の所見を記載するにあたり、人骨番号を1号人骨とすることにした。性別・年齢は下記の所見から壮年の女性骨と推測した（表2）。人骨が検出された層は轟B式土器の単純層と考えられているので、本人骨は縄文時代前期に属する人骨と推測されている。

計測方法は、Martin-Saller(1957)によった。年齢区分は表3のとおりである。

表1 資料数 (Table 1. Number of materials)

成人			幼小児	合計
男性	女性	不明		
0	1	0	0	1

表2 出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	備考(残存部位)
1号人骨	女性	壮年	頭蓋片、大腿骨体のみ

表3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

年齢区分		年 齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳～15歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16歳～20歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳～39歳 (40歳未満)
	熟年	40歳～59歳 (60歳未満)
	老年	60歳以上

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(1996)を参照されたい。

所 見

1号人骨(女性、壮年)

1. 頭蓋

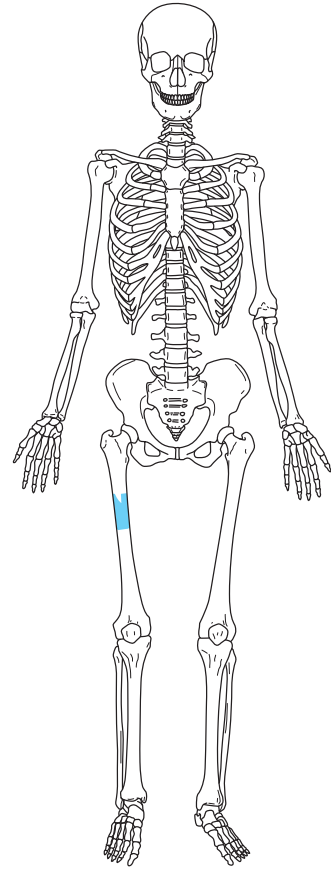
脳頭蓋の破片数点である。一片は頭頂骨の一部で、骨壁は薄い。冠状縫合の一部が観察できたが、おそらく内外両板とも開離していたようである。ほかの数片は側頭骨の乳様突起の上部付近と思われる。

2. 大腿骨

右側大腿骨体の一部が残存していた。骨質は比較的しっかりしているが、骨体中央部が6cm程度残っていたにすぎない。骨体の径は小さい。粗線は、幅は狭いが、明瞭である。骨体中央矢状径は23mm(右)、骨体中央横径は24mm(右)で、骨体中央断面示数は95.83(右)となり、骨体両側面の後方への伸展はほとんどみられない。骨体中央周は73mm(右)で、骨体はかなり細い。

3. 性別・年齢

大腿骨体が細いことから、性別を推測すれば女性ということになる。年齢は観察できた冠状縫合の内外両板が開離していたようなので、壮年としておきたい。



1号人骨(女性・壮年)

図2 人骨の残存図(アミかけ部分)

(Fig.2 Shaded areas are preserved)

考 察

大腿骨体の計測ができたので、曾畑貝塚出土人骨(熊本県、縄文前期)、岩下洞穴出土人骨(長崎県、縄文早期)、東名遺跡出土人骨(佐賀県、縄文早期)、二日市洞穴出土人骨(大分県、縄文早期)と比較してみた(表4)。本例の骨体中央周は73mmで、二日市洞穴の62mmよりは大きい、曾畑貝塚、岩下洞穴および東名よりは小さく、本例の骨体はかなり細い。骨体中央断面示数は95.83で、この示数値はいずれの比較資料よりも小さく、骨体両側面の後方への発達はきわめて悪い。すなわち、本大腿骨体は細く、縄文早・前期人大腿骨にみられる柱状性が認められない大腿骨であるが、これは海浜部に位置する菜畑縄文前期人(4b、4c)と同じ特徴である。

要 約

福岡県築上郡築上町(旧・椎田町)大字小原字不動に所在する小原岩陰遺跡おぼらの発掘調査が1991(平成3)年11月27日から翌年の1月17日までおこなわれ、第3トレンチの第36層から人骨が出土した。残存量は少ないが、人類学的観察と計測をおこない、以下の結果を得た。

1. 小原岩陰遺跡は海岸部に立地する岩陰遺跡である。発掘調査で出土したのは1体分の人骨で、壮年の女性骨と推測される。埋葬遺構は土坑墓である。

2. この人骨は、考古学的所見から、縄文時代前期に属する人骨である。
3. 残存していたのは頭蓋片、大腿骨片のみで、頭蓋壁は薄い。
4. 大腿骨は右側骨体の一部である。骨質は堅牢であるが、骨体の径は小さい。骨体中央矢状径は23mm(右)、骨体中央横径は24mm(右)、骨体中央断面示数は95.83(右)となり、骨体両側面の後方への伸展は悪く、骨体中央周は73mm(右)で、骨体はかなり細い。
5. 大腿骨は内陸部に立地する二日市洞穴の縄文早期人よりは大きい、やや内陸にある岩下洞穴縄文早期人や海浜部の東名縄文早期人よりは細い。また、縄文早・前期人とは異なり本女性大腿骨には柱状性が認められない。縄文早・前期人骨の出土例はあまり多くないので、その特徴がまだ明確ではない。今後、出土している人骨を丹念に資料化し、縄文早・前期人の全体像を明らかにしていきたい。

謝辞

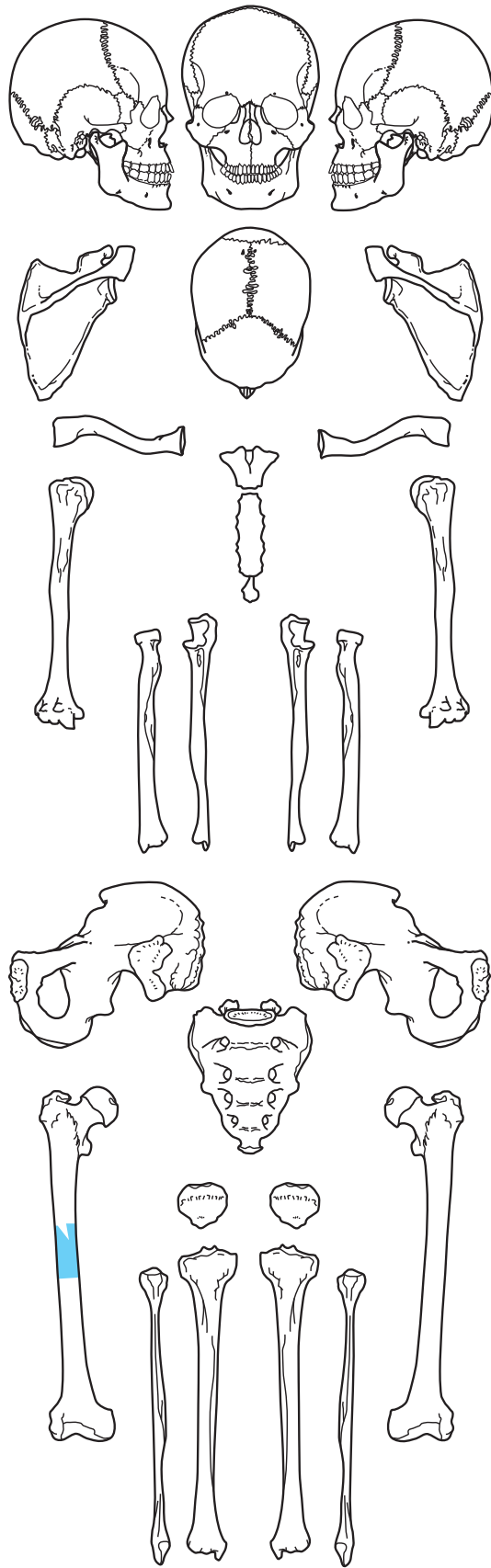
《本研究の機会を与えていただいた築上町教育委員会の皆様に感謝いたします。》

《参考文献》

1. Martin-Saller, 1957: Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1. Gustav Fischer Verlag, Stuttgart: 429-597.
2. 松下孝幸、1980: 二日市洞穴出土の人骨。大分県二日市洞穴発掘調査報告書: 98-103.
3. 松下孝幸・他、1982: 佐賀県唐津市菜畑遺跡出土の人骨。菜畑(唐津市文化財調査報告第5集): 388-398.
4. 松下孝幸、1992: 小原岩陰遺跡出土の縄文人略報。小原谷 I (椎田町文化財調査報告書第4集): 72.
5. 松下孝幸・他、1988: 熊本県曾畑貝塚低湿地遺跡出土の縄文時代人骨。曾畑-熊本県宇都市花園町曾畑貝塚低湿地の調査(熊本県文化財調査報告第100集): 242-249.
6. 松下孝幸、1996: 土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査出土の中世・弥生時代人骨。土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第12集): 24-50.
7. 松下孝幸・他、2009: 佐賀市東名遺跡出土の縄文早期人骨。東名遺跡群 I 第4分冊(佐賀導水事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5)(佐賀市文化財調査報告書第150集): 16-23.
8. 松下孝幸・他、2016a: 東名遺跡出土の縄文早期人骨の特徴とその意義。東名遺跡群IV(東名遺跡群総括報告書)(佐賀市埋蔵文化財調査報告書第100集、東名遺跡再整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2)第1分冊【堆積層・遺構編】: 101-114.
9. 松下孝幸、2016b: 東名遺跡出土人骨の特徴。東名遺跡群IV(東名遺跡群総括報告書)(佐賀市埋蔵文化財調査報告書第100集、東名遺跡再整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2)第4分冊【総括編】: 63-65.
10. 松下孝幸、2017: 骨からわかる東名縄文人の特徴。佐賀市教育委員会編『東名遺跡』: 164-171. 雄山閣
11. 内藤芳篤、1967a: 洞穴出土の人骨。岩下洞穴: 40-41.
12. 内藤芳篤、1967b: (長崎県岩下洞穴)人骨。日本の洞穴遺跡: 273-278. 平凡社。
13. 内藤芳篤、1968: 岩下人の特徴。岩下洞穴の発掘記録: 204-206. 中央公論美術出版
14. 内藤芳篤、1977: 粉洞穴出土の縄文時代人骨略報。大分県粉洞穴発掘調査概要-第1・2次調査-。考古学論叢、4: 99-109.
15. 内藤芳篤、1979: 粉洞穴の人骨。粉洞穴 千古の歴史: 8-14.
16. 内藤芳篤、1980: 粉洞穴の縄文時代人骨。別府大学附属博物館だより、No.7: 9-10.
17. 小片保、1962: 越後国室谷洞窟人骨所見。人類学雑誌、70: 87-103.
18. 小片保、1963: 愛媛県上黒岩岩陰遺跡人骨概報(第1報)。上黒岩遺跡学術調査報告書(愛媛県文化財調査報告第1集)

19. 小片保、1976：帝釈峽遺跡群人骨略報。帝釈峽遺跡群。亜紀書房、東京、193-200.
20. 小片保、1981：縄文時代人骨。人類学講座5 日本人I：27-55. 雄山閣
21. 椎田町教育委員会、1992、小原谷I－福岡県築上郡椎田町所在遺跡の調査－（椎田町文化財調査報告書第4集）
22. 鈴木文太郎、1918：肥後轟貝塚河内道明寺にて発掘せる人骨に就いて。人類学雑誌。33：59-66.
23. 鈴木尚、1950：相模平坂貝塚（早期縄文式遺跡）の人骨について。人類学雑誌、61：117-128.
24. 鈴木誠、1968：長野県北相木村栃原岩陰遺跡と人骨。人類学雑誌、76：52-54.

* Takayuki MATSUSHITA、** Masami MATSUSHITA（特定非営利活動法人人類学研究機構）



1号人骨(女性・壮年)

図3 人骨の残存図(アミかけ部分)

(Fig.3 Regions of preservation of the skeleton. Shaded areas are preserved)

表4 大腿骨計測値(女性、右、mm)(Table 4. Comparison of measurements and indices)

	小原岩陰		曾畑貝塚		岩下洞穴			東名		二日市洞穴
	縄文前期		縄文前期		縄文早期人			縄文早期人		縄文早期
	福岡県 築上町 (松下・他)		熊本県 宇土市 (松下・他)		長崎県 佐世保市 (内藤)			佐賀県 佐賀市 (松下・他)		大分県 九重町 (松下)
	1号	2号	1号	8号	21号		14015		2号	
6. 骨体中央矢状径	23	25 (左)	28	-	26 (左)		25 (左)		21	
7. 骨体中央横径	24	24 (左)	21	-	25 (左)		24 (左)		18	
8. 骨体中央周	73	79 (左)	79	-	79 (左)		77 (左)		62	
9. 骨体上横径	-	-	27	26	26 (左)		-		-	
10. 骨体上矢状径	-	-	22	19	21 (左)		-		-	
6/7 骨体中央断面示数	95.83	104.17 (左)	133.33	-	104.00 (左)		104.17 (左)		116.67	
10/9 上骨体断面示数	-	-	81.48	73.08	80.77 (左)		-		70.83	

表5 大腿骨(mm)(Femur)

	小原岩陰 1号人骨 女性 右
1. 最大長	-
2. 自然位全長	-
3. 最大転子長	-
4. 自然位転子長	-
6. 骨体中央矢状径	23
7. 骨体中央横径	24
8. 骨体中央周	73
9. 骨体上横径	-
10. 骨体上矢状径	-
15. 頸垂直径	-
16. 頸矢状径	-
17. 頸周	-
18. 頭垂直径	-
19. 頭横径	-
20. 頭周	-
21. 上顎幅	-
8/2 長厚示数	-
6/7 骨体中央断面示数	95.83
10/9 上骨体断面示数	-



頭蓋 (The skull)



正面 (Frontal view)

後面 (Rear view)

右大腿骨 (The right femur)

1号人骨 (女性・壮年)

(The skeleton No.1 from the Obara rock shelter site, young adult female)